

	福井高専 平成27年度年度計画	福井高専 平成27年度実績報告
(1) 入学者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県中学校長会会長を外部有識者の一人に迎えるとともに、中学校への個別訪問などを通じ高専制度の利点と実績をアピールし理解促進に努める。 ・これまでの実績を踏まえ、県下全中学校を訪問し、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努めるとともに、地域の中学高校連絡会に参加し、直接校長に対しPRする。 ・機構の情報提供を待ち、マークシート方式による入試業務のワークフローを早急に確定させる。 ・本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座や出前授業の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。 ・広報を通じて本校の各種イベントを紹介し、社会に向けての広報活動に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県中学校長会会長を外部有識者の一人に迎えるとともに、中学校への個別訪問などを通じ高専制度の利点と実績をアピールし理解促進に努めた。 ・これまでの実績を踏まえ、福井県下全中学127校並びに滋賀県81校、石川県9校を訪問し、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努めるとともに、地域の中学高校連絡会に参加し、直接校長に対しPRした。 ・マークシート方式による入試業務のワークフローを作り、リハーサルを実施し、大過なく業務を遂行した。 ・今年度実施した小中学生と一般を対象の公開講座は22件(受講生約290名)、また出前授業は22件(受講生約1,770名)である。この内、2件の出前授業は福井県生涯学習大学開放講座協議会からの依頼を受けて実施した。事後アンケートによると満足度は公開講座については約96%、出前授業については約90%であり、いずれも満足度は高く、科学教育の啓発と支援ならびに地域における高専ブランドの向上を図ることができた。 ・地方自治体等の公式イベントに参加協力し、高専ブランドの浸透を図った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回行っているオープンキャンパスの内容充実を図り、小学生や中学校低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるように工夫する。また、アンケートなどのデータを学内で共有し、内容の充実に努める。 ・女子中学生向けに特化したパンフレットや広報誌などを刷新し、積極的にPRを行う。 ・女子中学生を対象とした体験学習会を継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回行っているオープンキャンパスの内容充実を進め、小学生や中学校低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるように工夫を続けている(参加者数5月:534名、8月:707名、10月:231名)。また、アンケートなどのデータを学内で共有し、内容の精査に努めている。 ・女子中学生向けに特化したパンフレットや広報誌などを刷新し、積極的にPRを行なった。 ・高専女子百科Jr.福井高専版とOGインタビューDVDを作成し、オープンキャンパス等の開催時に参加女子中学生に配布し、積極的に広報活動を展開した。 ・9月に女子中学生と保護者を対象とした体験学習・懇談会を開催し、56名の女子中学生と50名の保護者が参加した。事後アンケートによると、体験学習と懇談会の満足度は100%であった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報パンフレットの見直しを図り、適切でわかりやすい情報提供に努める。 ・地域広報誌を使い、幅広い層への本校のプレゼンス浸透を図る。 ・改善した入試方法で専攻科入学試験を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校要覧などを見直し、年次改変に伴った適切でわかりやすい情報提供に努めた。 ・季刊地域広報誌、地域連携テクノセンター広報誌(ラボガイド、JOINT2015)などを使い、幅広い層への本校のプレゼンス浸透を継続的に図っている。 ・地域FM局など各種メディアを通した番組を作成配信し、幅広い人々への理解浸透を図った。 ・専攻科案内パンフレットを刷新するとともに、改善した入試方法で専攻科入学試験を実施し、推薦選抜で24名及び学力選抜で5名の合格者を発表した。入学確約書は推薦選抜24名、学力選抜1名が提出し、来年度の専攻科入学予定者は25名となった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対して高専でのキャリア育成を説明する中で、入試説明会なども含め、アドミッションポリシーの理解に努める。 ・リーダーシップを発揮できる素養を持った学生など、幅広い人材を求めるために推薦要件の運用に工夫を凝らす。 ・平成28年度の新カリキュラム導入に伴い、入学生の需要を踏まえ柔軟に対応できるよう、2年進級時に転科可能なシステムについて検討する。 ・機構の情報提供を待ち、マークシート方式による入試業務のワークフローを早急に確定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試説明会などにおいて、中学生に対して高専でのキャリア形成の優位性を説明するとともに、アドミッションポリシーの理解が進むようにした。 ・リーダーシップを持った学生など、課外活動評価が高い人物も受け入れられるように推薦要件を変更している。 ・平成28年度の新カリキュラム導入に伴い、個人の分野適正に柔軟に対応できるよう、2年進級時に転科可能なシステムを拡大実施した。 ・マークシート方式による入試業務のワークフローを確定させリハーサルを行い本試験を大過なく実施できた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な広報活動を継続的にを行い、中学校と連携を取りながら、高い志と資質を持った入学志願者の確保に努める。また、学校訪問に併せ、女性のキャリアパスを積極的にアピールし、女子志願者増を図る。 ・就職・進学など進路の多様化、体験に基づく早期専門教育、授業料等の経済性などのメリットを有する高専制度の特徴を、様々な機会をとおしてアピールする。 ・"教育環境アンケート"等における意見や要望に基づき、女子学生の修学環境の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学への直接訪問や各種イベント・メディアを通した広報など多様で効果的な広報活動を継続的にを行いプレゼンス向上に努めるとともに、地域ニーズを確実に吸い上げ中学校と連携を取りながら、高い志と資質を持った入学志願者を推薦枠により確保することに努めた。 ・就職・進学など進路の多様化、体験に基づく早期専門教育の優位性、授業料等の経済性などのメリットを有する高専制度の特徴を、様々な機会を通してアピールした。 ・高専女子百科Jr.福井高専版とOGインタビューDVDを作成し、オープンキャンパス等の開催時に参加女子中学生に配布し、積極的に広報活動を展開した。 ・9月に女子中学生と保護者を対象とした体験学習・懇談会を開催し、56名の女子中学生と50名の保護者が参加した。事後アンケートによると、体験学習と懇談会の満足度は100%であった。 ・男女共同参画推進専門部会による「学内環境アンケート」の集計結果に基づき、校内女子トイレ内の多目的トイレ等(13か所)に折り畳み式踏み台、棚およびフックを設置して更衣に利用できるように整備した。また、階段目隠しパネルを設置して女子学生の修学環境の向上を図った。さらに、洋式便座除菌クリナーを試行的に設置し、利用頻度の調査を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに定めた本校の高度化の基本方針に基づき、高度化移行時の教育体制等について実質的な準備を開始するとともに、高度化完成時のカリキュラムの整合性を高専全体の高度化の中で検討する。 ・グローバル人材の育成を考慮し、「使える英語」の習得を目指した英語教育の内容を検討する。 ・平成28年度からの本校高度化カリキュラムを実施するための教育施設整備について検討する。 ・現在の生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の2専攻をまとめて、環境生産システム工学専攻の1専攻とすることを本校の高度化、大学評価・授与機構における学士の学位授与に係る特例認定、及びJABEE認定されている「環境生産システム工学」教育プログラムとの整合性を図りながら、継続的に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに定めた本校高度化の基本方針に基づき検討を行ってきた化移行時の教育体制等について実質的な検討を終了するとともに、完成時のカリキュラムの整合性を高専全体の高度化の中で継続的に検討している。 ・「使える英語を「聞ける」「話せる」という意思疎通の力と捉え、低学年の英会話の授業に少人数教育(20人程度を目安)を試験的に採用し効果を上げている。また、基礎英単語やリスニング、文法修得の自学自習支援システムとして反復練習課題をムードル上に作成し、公開のために機構のブラックボードへの移植を試みている。 ・平成28年度からの本校高度化カリキュラムを実施するための教育施設整備(総合教育研究棟の改築など)について検討し、着手可能な範囲で整備を始めた。 ・現在の本校専攻科2専攻を高度化し、大学評価・学位授与機構における学士の学位授与に係る特例認定及びJABEE認定されている「環境生産システム工学」教育プログラムとの整合性を図りながら改組することを学内で合意し、改組後のカリキュラム内容の方針を立て、本科のカリキュラムとの整合性を図りながら、次回特例申請時に間に合うように実際の改組を実施することとした。

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度実績報告</p>
<p>(2) 教育課程 の 編 成 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに定めた本校の高度化の基本方針に基づき、教育体制等についての議論を継続して行い、新カリキュラムに関する実運用の基本設計完了を目指す。 ・専攻科修了生から社会のニーズの動向を把握するための方策を検討する。 ・平成27年5月に専攻科修了生によるホームカミングデイを開催し、社会のニーズの動向を把握し、今後の教育内容と質の向上に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに定めた本校高度化の基本方針に基づき、教育体制等についての議論を継続して行い、新カリキュラムに関する実運用の基本設計を完了させた。 ・卒業生へのフォローアップと社会ニーズの動向把握の目的で、5月に専攻科修了生によるホームカミングデイを開催し、19名の参加を得た。同時に行ったアンケートの回答から、現在の専攻科の教育内容の中で、コミュニケーション及びプレゼンテーション能力の養成が社会に出てから特に有効であるとのコメントを多数得た。同イベントは来年度も開催することとした。ただし、開催時期及び内容については来年度当初に検討することとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・到達度試験結果を学生にフィードバックするとともに、同試験に対するメンタルバックアップを開始する。また、学生自ら達成度評価シートを作成させ、指導に活用する。 ・機構のCBT活用をにらみ、4年次英語の実力を判定する仕組みの導入を検討する。 ・TOEICやTOEFL受験を推奨するとともに、これらのスコアも単位化する方向で検討する。 ・低学年での英会話能力の育成を目指し、少人数教育を継続して導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到達度試験結果を学生にフィードバックするとともに、試験結果に対するメンタルバックアップを開始した。達成度試験で低得点をとる学生は、授業取り組みへの意識だけでなく、その基になる生活そのものに起因することが多い。そこで、毎年実施しているQUTテストの結果も加味しながら「モチベーションの確保」という側面で担任とカウンセラーからの支援を行っている。 ・CBTでの反復練習等を基礎とし、TOEIC (IPを含む) などを利用した実力評価受験を推奨(費用の補助有り)している。(外部評価は内製試験に比べてその客観性が保証されるため)。インセンティブとしては、①:一定スコア以上の場合、本科科目への単位振替。②:既に取得済みの外部評価スコアが(比較できる外部評価で、定めた基準点以上)あれば専攻科受験時の英語免除と英語成果への評価組み込みを行う。対して、スコアが伸びない学生に対しては幅広い学修支援体制を整備し英語への興味涵養を促すと共に、CBT等を活用して一定のスコアを超えるよう継続した指導をしてゆく(進級認定に絡めるには時期尚早)ことを考えている。 ・機構のCBT活用を踏まえ、上記以外に4年次英語の実力を判定する仕組みの導入を検討している。 ・TOEICやTOEFL受験を推奨するとともに、これらのスコアも単位化する方向で継続的に検討している。 ・低学年での英会話能力の育成を目指し、少人数教育を継続して導入している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・前期終了科目等の授業アンケートをWEB入力により8月に実施する。通年・後期開講科目については3月にWEB入力により実施する。また、前年度の授業アンケートに対する教員側のコメントを6月中に収集し、9月に学生へは紙媒体で、教職員へは学内グループウェアで公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月と3月にWEB入力による前期終了科目と後期終了科目及び通年科目の授業アンケートを実施し、実施後即座にメールによりアンケート結果を担当教員へ返却した。3月一杯に教員側のコメントを収集し、次年度の7月にはアンケート結果とコメントを公開する予定である。前年度の授業アンケートは情報処理センターの機種変更の為にアンケートを4月に行った為、教員側のコメントを6月中に収集し、9月に学生へは紙媒体で、教職員へは学内グループウェアで公開した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種コンテスト及び高専体育大会に積極的に参加するとともに、そのための環境整備に努める。 ・学生のものづくり志向を涵養するため「福井高専キャンパスプロジェクト」を企画、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットコンテスト東海北陸地区大会(10月)、プログラミングコンテスト(10月)、デザインコンペティション(11月)に参加した。その他、第8回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト(11月)、第11回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト(9月)、第9回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト(1月)に参加した。ロボコンでは、準優勝、アイデア賞を獲得するとともに、5年ぶりの全国大会への出場を果たした(11月)。英語プレゼンテーションコンテストでは2位に入賞した。 ・第9回GPS・QZSSロボットカーコンテストダブルバイロンレースに出場し、優勝した。 ・第7回英語IBCエッセイコンテストに応募し、最優秀賞を受賞した。 ・G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール(12月)参加し、北陸総合通信局長賞を受賞した。 ・高専全国体育大会へは、テニス、卓球、剣道、柔道、水泳、陸上の6種目に出場し、テニスが男子団体優勝、男子ダブルスが3位、卓球女子シングルスが優勝、ダブルスが準優勝、水泳200m平泳ぎが3位であった。 ・「福井高専キャンパスプロジェクト」の企画を募集し、5件についてプロジェクトを認可した。これらのプロジェクトに参画した学生は、12月に活動成果の報告会を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動への周知、支援を行う。 ・新入生オリエンテーション合宿研修の中で、地場産業体験活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に、新入生オリエンテーション合宿研修の中で、3大地場産業の体験活動を福井県陶芸館、うるしの里会館、パピルス館において実施した。 ・5月に寮生会を中心とした19名の学生が、地元の河川敷の清掃活動に参加した。 ・9月に鯖江市立神明保育所において12名の学生が保育ボランティアに参加した。 ・10月に61名の学生が参加し、鯖江市内と越前市内の通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る4コースに分かれ、ゴミ拾いを行った。参加学生の満足度は96.7%であった。 ・述べ64名の学生がスタッフとして9件の出前授業を支援し、述べ821名の小中学生ならびにその保護者と交流した。また、公開講座13講座において、延べ34名の学生がスタッフとして支援し、延べ195名の小中学生ならびにその保護者と交流した。
	<p>(3) 優れた教</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業などでの豊富な実務経験者、技術士等の国家資格を有する者、および他の教育機関での経験を有する者の採用に向けて努力する。 ・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極める。
<ul style="list-style-type: none"> ・「高専・技科大間教員交流制度」の利用経験者による報告会等を通して同制度の有益性の浸透を図り、同制度の利用を促進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・6月に、昨年度「高専・技科大間教員交流制度」により石川高専と富山高専に派遣された教員2名による報告会を開催し、教員に対し同制度の有益性について浸透を図るとともに、積極的な利用を促した。 ・今年度、「高専・技科大間教員交流制度」に基づき、富山高専より英語教員1名を受入れた。
<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な経験や高度な実務能力を持ち、優れた教育力を有する者を採用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員公募選考の結果、優れた教育力などを有する者(女性)を10月に採用するとともに、次年度には豊富な実務経験に加えて高度な国家資格などを有する教員5名の採用を決定した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の趣旨を踏まえ、女性教員の積極的な採用に向けて努力する。 ・女性教職員の就業環境の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に女性教員1名を採用するとともに、本年度行う全ての教員公募に際して「女性優先」を明記し、女性教員の比率向上に努めた。 ・男女共同参画推進専門部会による「学内環境アンケート」の集計結果に基づき、校内女子トイレ内の多目的トイレ等(13か所)に折り畳み式踏み台、棚およびフックを設置して更衣に利用できるように整備した。また、階段目隠しパネルを設置して女子学生の修学環境の向上を図った。さらに、洋式便座除菌クリナーを試行的に設置し、利用頻度の調査を行った。 ・職員会館における女子更衣室を改修し、女性教職員の就業環境を改善した。 	

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度実績報告</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">員の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に校長表彰等(課外活動、人事交流)などで顕著な成果等をあげている教職員による講演会を開催する。 ・8月の高専教育フォーラムに参加を促す。 ・9月に開催される大学間連携事業(フレックス)主催のFD合宿研修会へ参加する。 ・10月に技術士及び技術士制度に関する講演会を開催する。 ・11月にティーチングポートフォリオに関する講演会を開催する。 ・3月に大学間連携事業(フレックス)主催のティーチングポートフォリオ作製ワークショップを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AL研修会受講者には、創造教育開発センター内に設けたICTとALに関するWGIに参加してもらい、ALを含めたICT活用事例の紹介をしてもらった。CCT+有資格者は本校にいないが、授業力向上についてはGI-Net利用を含めたFD講習会を利用している。 ・6月に、校長表彰等を受けた教職員によるFD講演会を開催し、意識の涵養を図った。(参加者: 約80名) ・9月に開催されたフレックス合宿研修会(会場: 仁愛女子短期大学)へ5名の教員が参加した。 ・12月に、ティーチングポートフォリオ作成ワークショップに関する第2回FD講演会を開催した。(参加者: 約50名)
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を対象に、理事長表彰対象者として推薦する。また、年度末には全教職員に参加を求めて校長表彰も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な教員2名を理事長表彰対象者として推薦した。また、年度末に9名の教職員を「他の範たる者」として校長表彰した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究の発展と活性化のために、在外と内地の研究員制度の利用を奨励する。 ・「高専・技科大間教員交流制度」を利用して教員交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に、平成25～26年度の2年間にわたってドイツの大学に派遣された教員による報告会を開催し、研究活動のグローバル化を促進した。 ・英語による教育指導法の修得と教育研究能力の向上を目的とした”国立高等専門学校教員グローバル人材育成強化プログラム”に、教員1名を推薦し派遣候補者として決定した。
<ul style="list-style-type: none"> ・「モデルコアカリキュラム(試案)」を踏まえた現行カリキュラムを高度化に向けて修正するとともに、機構に対し積極的にフィードバックを行い、実用的なモデルコアカリキュラムになるよう努力する。 ・シラバスの記載方法の標準化に関して検討を行うとともに、ルーブリックの有効活用について精査する。 ・FDの一環としてICT活用に積極的に取り組むために、創造教育開発センター内にWGを立ち上げ、効率的な活用について検討を行う。 <p>また、各学科、一般科目教室及び専攻科では以下の取組みを行う。</p> <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から開始したモデルコアカリキュラムへの対応と、ものづくり系科目の充実を目的とした教育課程への移行を着実に進め、創造性を高める体験型教育を実践する。平成28年度から1年の専門科目の強化と高学年への高度化科目の導入を目的としたカリキュラムに改正されることを受け、今年度中に2年以上の科目も含め具体的な授業内容を検討し、ものづくり系科目のさらなる充実を図る。アクティブラーニングについては、全国高専フォーラム等に参加し、導入に関する検討を行う。 <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年進めたモデルコアカリキュラムへの対応について、見直し科目の内容評価を行い教育の質保証を推進するとともに、さらに対応を進める。また従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりをさらに充実させ、これを通して学生の主体的な学びによる問題解決能力育成を目指す。 <p>【電子情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年から高学年に至るまで、専門科目の基礎および応用的な知識の定着のため、資格試験の積極的参加を勧める。 ・モデルコアカリキュラムの内容を踏まえた上で、ネットワーク技術の拡大による社会的要請に応えるため、H28年度から情報ネットワーク概論(3年)の実施を目指す。 ・学外のICT関連企業の技術者と協力し、アクティブラーニングを意識した実践的かつ創造性を育むカリキュラムの取組みを目指す。このために様々なコンテスト応募を継続して行う。 <p>【物質工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平成28年度本校高度化再編・モデルコアカリキュラム対応学科教育課程表(案)」(平成26年度作成)の導入・実施に係る具体的課題を詳細に検討する。 ・本学科の基軸である「コース制(材料工学・生物工学)教育カリキュラム」における専門科目・共通科目(融合複合領域)のより効果的な授業内容と方法について創意工夫を図る。 <p>【環境都市工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度まで継続して学科内に設けていた「カリキュラム検討ワーキンググループ」を、平成27年度は「カリキュラム改訂ワーキンググループ」として再構成し、平成28年度の新教育課程導入に向けた手続きを進める。また、モデルコアカリキュラムやエンジニアリングデザイン等の情報収集及び本校からの情報発信に資するため、「全国高専フォーラム」等のFD活動に積極的に教員を派遣する。加えて、モデルコアカリキュラムと連動するCBT問題作成に対しても準備を進め、アクティブラーニングの推進に対応する体制を整える。 <p>【一般(自然)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モデルコアカリキュラム(試案)」の実現に向けて、教科ごと・クラスごとの授業実践に関して、教科間で定期的な情報交換を継続する。 ・物理系科目では、到達度試験に対する学力試験や評価の取り組みを行う。 ・数学科・応用数学科では、ICTの活用に向けて、教材の作成を検討するほか、グループ学習などを取り入れ、主体的な学習を促す教授方法を検討する。また、教科書を解説した動画を作成し、学生が自学自習できる環境を整える。 <p>【一般(人文)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モデルコアカリキュラム(試案)」に基づいて、実施時の課題や授業方法を検討する。 ・アクティブラーニング導入に向けて、各教科担当の教員でアクティブラーニングの実践例の検討を行う。 <p>【専攻科長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高専フォーラムにおいて、前年度の成果を発表する。 ・アクティブラーニング研修や到達度評価のためのルーブリック評価研修等に教員を派遣する。 	<p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムに対応し、ものづくり系科目を充実した教育課程への移行を着実に進めた。平成28年度入学生から実施される新カリキュラムについては、工作実習、製図、コンピュータ科学、力学入門についてのワーキンググループを立ち上げ、2年生以上の科目も含め具体的な授業内容を検討した。また、学際カリキュラムや授業時間配分の変更に伴い、新カリキュラムの見直しを行った。アクティブラーニングについては、ワーキンググループを立ち上げるとともに高専機構主催の研修に派遣し、課題探求型の創成科目を充実を図ってゆく。 <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムへの対応に関連する科目毎に内容評価を行い、対応していることを確認した。教育の質保証を推進するための高度化カリキュラムに対応した科目の新設を検討、決定した。従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりを見直し、課題内容を工夫し更なるエンジニアリングデザイン能力の涵養を図った。 <p>【電子情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識の定着のため、資格試験の積極的受験を勧めた結果、情報処理技術者試験・基本情報2名、デジタル技術者検定3級に2名が合格した。 ・平成28年度から「情報ネットワーク基礎」を後期開講とし、ネットワーク技術拡大に伴う社会的要請に合わせた。 ・創造性を育むカリキュラムへの取組みとして、「創造工学演習」にICT関連企業技術者を非常勤講師として任用した。 ・全国高専プログラミングコンテスト・競技部門に3名参加、パソコン甲子園プログラミング部門に4名(他学科より2名)が参加した。また、4年生が「GPS・QZSSロボットカーコンテスト2015」に参加しダブルパイロンレース部門で優勝、3年生が「ふくいソフトウェアコンペティション2015」にて、企業賞を受賞した。 以上のことから、今年度の予定は概ね達成できた。今後は、資格試験取得をキャリアアップの一環としてとらえ、受験者ならびに合格者がさらに増えるよう指導を行いたい。 <p>【物質工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度新たに、「平成28年度本校高度化再編・モデルコアカリキュラム対応学科新教育課程表」を作成した。 ・本学科の基軸である「(材料工学・生物工学)コース制教育カリキュラム」におけるコース別専門必修科目各3科目計12単位(「材料工学」「材料工学」「反応工学」「微生物学」「分子生物学」「食品科学」(新規))を導入するとともに、新規科目として共通選択科目(融合複合領域)に「創薬化学」「食料生産工学概論」の導入とその実施に係る具体的課題について詳細に検討した。 ・情報処理関連科目や実験・実習系科目等において、ICT活用とアクティブラーニングの導入・実践を図った。 <p>【環境都市工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの学科内「カリキュラム検討WG」を、平成27年度は「カリキュラム改訂WG」として再構成し、MCCや学際科目等について検討した。 ・本学科教員が高専機構本部主管「MCC改訂作業WG」に参画し、ここでの動向を見据えながら、平成28年度より導入する新教育課程を構築した。新教育課程ではMCCを念頭に入れた選択科目の必修単位化及び時代のニーズに沿った科目の新設を組み入れた。加えて、座学における学修単位の導入も図った。 ・平成27年度全国高専フォーラムに3名の教員が出席し、ALやウェブシラバス等の情報収集に努めた。 <p>【一般(自然)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モデルコアカリキュラム(試案)」の実現に向けて、授業実践にあたり、必要に応じて教科間で情報交換を行った。 ・物理系科目では、3年生を対象に夏季休業期間に課題を課し、到達度試験に向けて9月に学力試験を行った。また、冬季休業期間においても課題を課し、評価した。 ・数学科・応用数学科では、ICTの活用に向けて、教材の作成を検討するほか、グループ学習などを取り入れ、主体的な学習を促す教授方法を検討した。また、教科書を解説した動画を作成し、学生が自学自習できる環境を整えている。さらに、作成した動画を管理し配信するため、動画サーバーを校長裁量経費によって導入した。 	

	福井高専 平成27年度年度計画	福井高専 平成27年度実績報告
<p>1 教育に関する事項</p> <p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>		<p>【一般(人文)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モデルコアカリキュラム(試案)」に基づいて、実施時の課題や授業方法について検討した (1)公開授業週間に、国語、倫理社会、英語の公開授業及び懇談会を実施し、モデルコアカリキュラムに準拠した場合の授業方法及び授業進捗を、授業担当教員および参観教員によりチェックした。 (2)社会的コミュニケーション実践の一環として国語科で実施している「恩師に暑中見舞葉書を書く」取組みについて、国語科で見直しを行い、より効果が上がるよう、実施時期などを変更した。 (3)次年度の歴史学特講の授業に「地域史」の調査・発表・提案を中心としたアクティブラーニングを導入する計画について、授業方法や実施時の課題の詳細を検討し、基本資料を策定した。 (4)「高専生の英語力向上」に関わる機構プロジェクトの一環としてEnglish Cafeを創設し、外国人による講演会の開催(英語科・社会科協同事業を含む)等でアクティブラーニングの促進を図った。 (5)国語科・社会科・英語科・理科、および専門科目の教員から構成される「校内『歌える』翻訳コンテスト」実行委員会のメール会議において、前年度実施の反省を踏まえ、アクティブラーニングの促進につながる方策について検討し(具体的方策については福井高専研究紀要にて報告した)、その方策に基づいて第2回コンテストを実施した。 <p>【専攻科長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高専フォーラムに12名の教員(校長、副校長を除く)が参加した。 ・研修会及び講習会への教員派遣状況は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・JABEE審査講習会に1名 ・IIBCセミナー in 東京(大学におけるグローバル化への取組み)に1名 ・第3ブロックWebシラバス講習会に2名 ・第3ブロックアクティブラーニングトレーナー研修会(高専機構主催)に2名 ・「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ 第6回」(JABEE、日工教)に1名 ・「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ 第7回」(JABEE、日工教)に2名 ・第10回ワークショップ「エンジニアリングデザイン教育」へ1名 ・第3ブロックAL推進研究会1名 ・eラーニング高等教育連携全体会議へ1名 ・JASSO支援制度・トビタテ！留学JAPAN説明会へ1名 ・第2回アクティブラーニング研究シンポジウム(函館高専)に1名 ・第3ブロック平成27年度インストラクショナルデザイン研修に1名 ・英語科教員担当教員向け英語教授力向上研修へ1名 ・高専機構英語教育高度化推進のための「英語教授力の現状把握」へ2名
	<ul style="list-style-type: none"> ・高専学生情報統合システムの導入に向けて現用システムとの要件差を洗い出し、現システムからの移行措置に関してブリッジシステムの検討を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高専学生情報統合システムの導入に向けて、現システムとの相違点・問題点を洗い出し、現システムとの整合性をとる観点からブリッジシステムの検討を行った。機構の基本仕様が確定した段階で、詳細設計を開始する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中の資格取得を積極的に勧め、学習意欲の涵養に努めるとともに、学科別の資格ガイドブックの充実を図る。 ・前年度までの教育改善をまとめ上げ、今年度のJABEE継続審査にてプログラム認定の更新を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中の資格取得を積極的に勧め、広報誌にその成果を載せるとともにキャリアアップへの意欲涵養に努めた。 ・学科別の資格ガイドブックの充実を継続的に図り、キャリア形成の意味で後押しする仕組みの導入を検討してゆく。 ・9月にJABEE認定継続審査の実地審査を受審した。審査団からは概ね基準を満たしているとの審査結果を得た。指摘事項に関する改善内容を検討し、PDCAを回した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のサマースクールや県内の大学連携事業に参加し、高専の枠を超えた学生の交流活動を促進する。 ・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生に出前授業や公開講座等へのスタッフとしての参加を促す。また、中部日本海5高専共同PRサイト編集委員会などに積極的に学生を派遣する。 ・体育系の部活動において舞鶴高専との交換試合を実施し、交流を深める。 ・他高専学生寮との間の交流活動を推進する。特に東海北陸地区及び全国高専の寮生会交流事業への積極的な参加を進め、寮生会活動の質的向上を図る。また、海外からの短期留学生を受け入れた場合には、寮生との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のサマースクールや県内の大学連携事業を実施し、高専の枠を超えた学生交流活動の促進を図った。 ・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生に出前授業や公開講座等へのスタッフとしての参加を促している。また、中部日本海5高専共同PRサイト編集委員会など、学生が主体に活動できる場を用意し学生を参加させた。 ・5月に舞鶴高専と交換試合を、男女バスケットボール、女子バレーボール、サッカー、柔道、剣道、バドミントンの7種目の競技で実施し、交流を深めた。 ・10月に開催された高専祭の企画として防災グルメコンテストおよび火おこし競争を行った。同企画は本校の学生が地域防災士会と共同で企画したもので、本校学生16名、鯖江市・越前市の住民、市役所の関係者47名、本校教職員7名が参加し、防災意識を通して交流を深めた。 ・北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくりトライアルコンクールに本科生・専攻科生が応募し、北陸総合通信局長賞を受賞した。 ・今年度の寮生会交流事業は開催されなかった。来年度の寮生会役員に、次年度以降開催された場合の参加について説明をしている。 ・女子短期留学生滞在用に、居室の整備を行った。 ・1月に香港VTCからの短期留学生6名(男子5名、女子1名)が寮に滞在中。滞在中は、学生寮のルールに従って行動してもらい、最終日前日夜には交流会が行われ、寮生役員会メンバーを中心に約50名の寮生と5名の教員が参加し、異文化交流を図った。

<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度実績報告</p>
<p>・専攻科におけるエンジニアリング・デザイン能力育成科目「創造デザイン演習」、英語力育成科目「現代英語」、「技術者英語コミュニケーション演習」の授業内容及び評価方法を継続的に改善することを検討する。</p>	<p>・専攻科「創造デザイン演習」では、ボードゲームの作成をおしてユーザーとメーカーの関係を体験しながら、チーム内討議を含め製品開発に対するエンジニアリング・デザイン能力を育成した。 ・専攻科「現代英語」、「技術者英語コミュニケーション演習」では、英語による口頭発表及び抽象的作成の能力が向上するような授業内容とし、プレゼンテーションを重視してのアクティブラーニングを取り入れた授業を実践している。 ・アクティブラーニング推進経費を申請し採択された。来年度以降、導入した設備を用いてアクティブラーニングによるエンジニアリングデザイン能力及びグローバルコミュニケーション能力のさらなる育成を図る。</p>
<p>・平成31年度に予定している認証評価受審に向けて各種関係資料等の整理や準備を継続して行う。</p>	<p>・平成31年度に予定している認証評価受審に向けて、各種関係資料や本校の特徴的な取組み事例等の整理を行った。</p>
<p>・本科4年生及び専攻科1年生の学生全員に対し、インターンシップの推進と充実を図る。 ・専攻科生に対して、海外インターンシップを積極的に勧める。 ・共同教育コーディネーターと地域支援コーディネータを任用し、産官学連携活動と連動したインターンシップを推進する。なお、本件は企業技術者等活用プログラムに応募中の「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」に基づき実施する。</p>	<p>・例年通り、7月に4年生と専攻科1年生を対象にしたインターンシップ事前研修を実施した。また、全員に対して県内外及び海外での企業・機関でのインターンシップを実施し、10月に報告会を行った。 ・マレーシア及びタイで、専攻科2年と1年の学生が、それぞれインターンシップ(1ヶ月)を行った。 ・アンケートによると、インターンシップ参加学生の約9割が実習内容に満足と回答している。 ・平成27年度県内大学生等の定着促進事業補助金を活用し、学内のコミュニティプラザに企業展示コーナーの整備を行った。 ・産官学連携コーディネーターと協同して海外インターンシップ受入について県内企業との交渉を行うため、マレーシアに拠点のある3社を訪問し、本校学生受け入れの調整を行った。これにより、平成28年度より海外インターンシップの派遣事業がスタートすることとなった。</p>
<p>・本科のものづくり系実験実習科目において、知的財産の専門家を任用し、知的財産教育を行う。また、本科1年生と4年生、専攻科1年生を対象に知的財産に関する講習会を行う。なお、本件は(独)工業所有権情報・研修館からの助成事業「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」を活用して実施する。</p>	<p>・6月には本科4年生、8月は専攻科1年生を対象に弁理士による知的財産講習会を開催し、インターンシップ前の企業技術者としての知的財産に対する心構えを学習させた。また、12月には本科1年生を対象にした講習会を開催し、高専で学ぶ上での知的財産の意義について学習させた。 ・知能機械演習(機械工学科4年)、電気電子工学実験Ⅰ(電気電子工学科1年)、電気回路Ⅱ(電気電子工学科3年)、電力システムⅠ(電気電子工学科4年)、技術者基礎(電気電子工学科5年)、創造工学演習(電子情報工学科4年)、物質工学実験Ⅲ(物質工学科4年)、環境都市工学設計製図Ⅱ・Ⅲ(環境都市工学科3・4年)の各授業に弁理士等の外部講師を招聘し、知的財産権に関する指導を行った。 ・(独)工業所有権情報・研修館による、平成28年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に申請し採択された。これにより、平成26年度から始めた知的財産教育の全学的取り組みが3年目となり、学生に対する継続的教育と教員の知的財産教育のスキルアップの体制が整備された。</p>
<p>・長岡技術科学大学のアドバンスコースを積極的に活用し、広域視野を持った人材育成に取り組むとともに、海外派遣を積極的に推奨することで、体験を通じた国際感覚を磨く機会の提供を図る。 ・三機関連携事業に参加し、またISTSやISATEIに対して複数の学生・教員を積極的に派遣することで、教育研究の広域相互交流を図る。 ・長岡で開催されるISATE2015に教職員を参加させ、研究発表させる。 ・マレーシアで開催されるISTS2015で学生を派遣して研究発表させる。</p>	<p>・長岡技術科学大学のアドバンスコース(4年3人、5年4人参加)を積極的に活用し、広域視野を持った人材育成に取り組むとともに海外派遣を積極的に推奨することで、体験を通じた国際感覚を磨く機会の提供を図った。 ・長岡で9月に開催された国際シンポジウムISATE2015に2名の教員が参加し、うち1名が研究発表を行った。 ・マレーシアで8月に開催された国際シンポジウムISTS2015に1名の専攻科学生が参加し、国籍の異なる学生同士とのワークショップに参加した。 ・英語による教育指導法の修得と教育研究能力の向上を目的とした”国立高等専門学校教員グローバル人材育成強化プログラム”に、教員1名を高専機構に推薦し、派遣候補者として決定された。</p>
<p>・ICT活用に積極的に取り組むため、創造教育開発センター内にWGを立ち上げ、効率的な事例開発と活用について検討を行う。 ・ICT導入・活用のためのインフラ整備(回線容量の増強)に努める。</p>	<p>・ICT活用に積極的に取り組むため、創造教育開発センター内にWGを立ち上げ、効率的な事例開発と活用について実績を積むとともに教員に対し積極的啓発活動を行った。 ・ICT導入・活用のための校内インフラ整備(回線容量の増強)等に継続的に努めている。 ・第3ブロック内で共通利用教材の調査を行い、利用可能な教材についてはブラックボードに載せ、公開する準備を整えた。 ・共通利用教材の調査結果については、ブロック内の校長間で情報共有を行っている。また、その一部について、機構ブラックボードへのデータ移行を睨み作業を進めている段階である。(3月末に一部公開)</p>

(5) 学生支援・生活支援等	福井高専 平成27年度年度計画	福井高専 平成27年度実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対してきめ細やかな対応をするため、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実を図る。 学生相談室においてメンタルヘルス関連のアンケートを実施し、学生の状況把握に努める。 校内外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ関係教職員を積極的に派遣する。 精神科医などと連携し、学生相談の体制の充実を図る。 卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 学内も含めた今後の入寮希望者数を予想し、そのために必要な居住棟の増設と、浴室や食堂などの関連施設の充実について、検討する。 施設全体の老朽化の状況を把握し、それを基に今後の改善について検討を行う。特に男子浴室の老朽化と狭小化について検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。 <ul style="list-style-type: none"> 各種講演会、全学年を通したポートフォリオの作成により、低学年からのキャリア教育の充実を図る。 大学・大学院合同説明会、合同企業説明会、様々なネット環境の利用により、企業情報、就職・進学情報などの学生への提供体制の充実を図る。 継続して先輩講座を行う。 女子学生のキャリア支援について先進的な取り組みをしている高専より講師を招き、女性技術者のキャリア形成について講演を行うとともに、女子学生のキャリア支援体制を検討し、可能なものから実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談室において学生のメンタルヘルスマネジメントを十分に行うため、専攻科生も含めた全学生対象に、ハイパーQテスト(6月)、高専生活に関するアンケート(10月)を実施し、学生の心理状況把握に努めた。 メンタルヘルスの充実のために、精神科医が8回来校し、相談業務を行った。 4月に実施した新入生オリエンテーションにおいて、1年生の全学生を対象に、学生主事及び学生相談室長が高専の学生としての心構え、学校生活の過ごし方などについて説明した。 年度当初に、1年生の全クラスをカウンセラーが訪問し、カウンセリング体制について紹介した。 8月に教職員対象のメンタルヘルス研修会として、福井大学保健管理センター教員による講演『学生のメンタルヘルスについて』を開催し、50名の教職員が参加した。 9月に教員を対象にして、Qテストの研修会(29名参加)を開催し、Qテスト結果の見方などの研修を行い、クラス経営の一助とした。 学生相談室員のスキルアップのために、県内外6つの研修会に延べ7名が参加した。また、保健室の看護師も県内外6つの研修会に延べ7名が参加し、スキルアップを図った。 卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施し、本年度は4名の学生を選出した。 特別支援室を継続的に運用し、身障者1名について支援を行っている。 教育後援会奨励金を活用して、家庭の経済事情に基づき5名の学生の就学を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> 昨年度行った入寮希望調査を基に、定員不足解消のため女子寮1FのPC室と相談室を居室に転用したほか、短期留学生滞在用学習室の1つを居室として使用できるように改装し、香港VTCからの女子短期留学生が入寮した際に活用した。 学生寮の施設面について、現状をより正確に把握するため、寮生全員を対象とする修繕要望調査を12月に実施した。そこで挙げられた居室の老朽箇所の修繕や、浴室内設備の入れ替えなどを、年度末に行った。 西寮の湿気対策として、12月に新たに除湿器を購入した。それまで最高で85%を記録していた居室内の湿度が、45%から60%程度で維持できるようになっている。 老朽箇所の修繕を検討した結果、(1)各棟の内壁、外壁のひび割れ修理、補修、(2)外壁の塗装、(3)学寮厨房温水ボイラーの掃除と点検、(4)女子寮排水設備ポンプの修理を行った。また生活環境の改善として、(5)寮の環境保全と害虫対策のために、学寮周りの樹木の剪定、(6)男子浴室、女子浴室のカビや錆の除去、(7)西寮カーペット貼り、(8)東寮玄関に鍵付き傘立ての設置、などを行った。また、(9)男子浴室ボイラー弁などに障害が発生したため、修繕を行った。 11月末から12月にかけて、学寮アンケートを実施した。そこで出された要望に基づき、寮内の学生用PCの更新を行った。また図書室(学習室)内の蔵書の刷新と机や椅子の買い換えを行った。 セキュリティ対策として、西寮にカメラを追加設置し、また女子寮にはネットワークディスクレコーダーを導入した。 <ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構奨学生は44名、その他奨学生は18名である。また、入学料徴収猶予許可者は1名、授業料免除対象者は、全額免除延べ40名、半額免除延べ16名、卓越した学生全額免除は4名である。 <ul style="list-style-type: none"> 現在の求人票閲覧システムについて、各種情報の管理・学生へのアンケートおよびシステムその他のコストを勘案して、大学間連携共同教育推進事業で開発された「進路支援システム」への移行を決定した。 低学年からのキャリア教育の充実を図るためのポートフォリオについては、1,2年生については電子化して学生に配布し、学生には7月のキャリアガイダンスでその必要性和記入方法について説明した。このことにより、学年進行とともに、担任教員が交代しても学生が自主的に運用できるものとなった。 大学と大学院の合同説明会を10月に実施し、10大学から説明を受けた。参加学生数は本科生80名、専攻科生20名であった。 キャリア教育セミナーについては制度の変更に伴い3月に実施し、会場も拡大して臨んだ結果、企業数145社、3,4年生、専攻科生併せて、371名の参加を得た。昨年のアンケートで、会場の狭さについて改善を求められていたが、これが解消されたため学生の満足度は93%であった。また、他の意見も取り入れて充実を図ってゆく。 卒業生を招聘しての先輩講座は、6月(3年生200名対象)、7月(2年生200名対象)および10月(4年生200名対象)に実施した。ほかに4年生を中心にして、クラスまたは希望者単位の講座を7件実施した。また、進路の決定した5年生、専攻科生の経験を低学年に伝える先輩フォーラムは、11月に各学科で実施した。 女子学生のキャリア教育については、上記の先輩フォーラムにおいて各学科3ないし5名の先輩講師のうち1名以上は女子学生とするようにした結果、講師役18人のうち、6人が女子となり、有効に機能した。 6月の3年生対象の先輩講座には特に女性講師を招聘したが、これを含め、全体で10件の先輩講座のうち4人を女性講師とした。さらに、12月には、香川高専／機構男女共同参画室併任教授(内田由理子氏)を招いて、本科3年生以上の女子学生を対象にした講演「女性技術者のキャリア形成」を実施するとともに、同氏と教員の懇談会を行って、本校で必要な女子学生のキャリア教育の取り組みについて有益な情報を得た。 7月と10月に専攻科1年、本科4年生を対象にした就職対策講座を実施し、インターンシップ対策および社会において必要な能力についての理解を深めさせた。特に、10月の就職対策講座は、昨年、就職情報会社の講師による講演が不評であったため、技術面接官の経験のある本校OBによる先輩講座に切り替えたと、アンケートで満足、ほぼ満足と答えた学生の割合は93%に上った。 アンケートによると、上記の先輩講座、就職対策講座、女子学生対象の講演会などに対して、満足、おおよそ満足と答えた学生の割合は、88%に達し、昨年より8ポイント以上改善した。

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度実績報告</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想(高度化)および全学的な視点からキャンパスマスタープランの検討を行う。 ・安全・安心の観点から老朽施設の整備を計画的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備委員会において、教育研究の高度化や地域貢献の強化等を考慮した平成28～32年間にわたるキャンパスマスタープランを策定した。 ・本館棟、機械工学科棟等の外部庇落下を受けて、同箇所を改修した。 ・機械実習工場、一般教育棟の各教室の室内灯器具の老朽化と照度不足を指摘されたため、器具等を更新した。 ・第1体育館の照明器具の取り替え、落下防止ワイヤーの設置、2階床ギャラリおよび階段室床の補修を行った。 ・第2体育館の内外壁と床面を改修するとともに、武道場の外壁を補修した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の室内灯落下防止対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本館棟、機械工学科棟等の外部庇落下を受けて、同部を改修した。 ・機械実習工場、一般教育棟の各教室の室内灯器具の老朽化と照度不足のため、器具等を更新した。 ・第1体育館の照明器具の取り替え、落下防止ワイヤーの設置、2階床ギャラリおよび階段室床の補修を行った。 ・第2体育館の内外壁と床面を改修するとともに、武道場の外壁を補修した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年8月に策定した「PCB含有の可能性のある廃電気機器の紛失を受けての再発防止計画」に基づき、PCB廃棄物の適正な管理を実施する。 	<p>PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法第8条の規定に基づき、毎年度、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況に関し、福井県知事に届け出るとともに、PCB廃棄物を適正に保管管理している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な安全教育と安全対策を行うための必要な取組みを行う。 ・学生及び全教職員に対する感染症対策に取組み、健康の維持・管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な安全教育と安全対策を行うために職場環境について月1度の巡視活動を実施し、指摘事項の改善フィードバックを行っている。 ・学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付し継続した啓発活動を実施している。 ・新任教職員に対する麻疹・風疹の予防接種を行うとともに、11月上旬には全教職員に補助を行った上で流行期前のインフルエンザワクチン接種を奨励し(接種率 86%)健康の維持・管理および2次感染防止に努めた。また、感染症の連絡体制を確立し、拡大予防を徹底している。 ・救命救急法の講習会を年3回実施し、学生及び教職員96名が緊急対応の研修に参加した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行い、同事業の促進を図る。 ・女性教職員の就業環境を改善し、ワークライフバランスを推進する。 ・育児や介護等による休業を取得しやすい環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行い、同事業の促進を図った。 ・10月に開催された北陸信越工学教育協会福井県支部研究集会において本校女性教員が、女性エンジニア育成の取組み事例を発表した。 ・12月に、香川高専／高専機構男女共同参画室の内田教授を招聘して、本校における男女共同参画推進についての意見交換・懇談会を実施し、教職員10名が参加した。 ・3月に高専機構主催による男女共同参画推進協議会に教員を派遣し、情報交換を行うとともに優れた取組み事例についての情報を収集した。 ・平成28年度女性研究者等キャリア支援(研究支援員)事業に、教員1名が応募した。 ・職員会館における女子更衣室を改修するなど、女性教職員の就業環境を改善した。
<p>2 研究や社会連携に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノセンター主催のJOINTフォーラム、アカデミア会員企業見学会、技術懇談会、産官学交流会を開催し、地域の企業や官公庁との連携を図る。また、全国高専フォーラムにおいて本校の産官学連携活動や共同研究の成果を発表する。 ・研究推進経費(研究プロジェクト)に応募する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に開催された北陸技術交流テクノフェアにおいて、専攻科2年生28名が研究シーズに関するポスター発表を行った。また、本校教員と企業との共同研究事例2件をブース展示した。 ・11月に、ふくいオープンイノベーション推進機構との共催でイノベーションリサーチ交流会を本校で開催し、県内の産官学関係者が30名参加した。テクノセンター、研究シーズ、コーディネーターの紹介を行い、学内主要研究設備の見学会を行った。 ・11月にJOINTフォーラムを開催し、2名の教員が産官学共同研究の取り組みに関する発表を行うとともに、10名の教職員が研究シーズや技術開発のポスター展示を行い、来場者との交流を深めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・TechBizExpo、エコプロダクツ、JOINTフォーラムや北陸技術テクノフェアにおいて共同研究の成果を発表する。また、産学連携コーディネーターを任用し、共同研究の受入を促進する。なお、本件は企業技術者等活用プログラムに応募中の「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」に基づき実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に開催された北陸技術交流テクノフェアにおいて、専攻科2年生28名が研究シーズに関するポスター発表を行った。また、本校教員と企業との共同研究事例2件をブース展示した。 ・11月に、ふくいオープンイノベーション推進機構との共催でイノベーションリサーチ交流会を本校で開催し、県内の産官学関係者が30名参加した。テクノセンター、研究シーズ、コーディネーターの紹介を行い、学内主要研究設備の見学会を行った。 ・11月にJOINTフォーラムを開催し、2名の教員が産官学共同研究の取り組みに関する発表を行うとともに、10名の教職員が研究シーズや技術開発のポスター展示を行い、来場者との交流を深めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産コーディネーターを任用し、卒業研究や特別研究から職務発明に結びつける仕組みを検討する。また、教員対象の知的財産・技術相談講習会を実施する。なお、本件は企業技術者等活用プログラムに応募中の「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」に基づき実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産コーディネーターを任用し、6月に教職員対象の知的財産・技術相談に関する講習会を開催した。また、同コーディネーターから教員の研究成果の知的資産化や知的財産教育委員会の審議事項について助言を頂いた。 ・3月開催のふくい知財フォーラムに3名の教員を派遣し、知的財産等の技術移転を目的としたポスター発表を行った。 ・1月に1件の発明届が提出され知的財産教育委員会で承認された。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の産官学連携活動と教職員の研究シーズを紹介する冊子「JOINT」を発行する。また、研究設備と研究設備利用規則を掲載した冊子「ラボガイド」を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月にテクノセンターの活動紹介誌兼教員研究シーズ集「JOINT」と研究設備ガイドブック「ラボガイド」を発行し、地域社会に配布した。また、同冊子やテクノセンターの活動予定と報告は随時、ホームページで紹介している。なお、上記冊子はふくいオープンイノベーション推進機構が整備する研究者ならびに研究設備データベースの資料として活用された。 ・10月よりアカデミア会員企業向けのメールニュース「JOINT Plus One」を発信し、教職員の研究シーズを紹介するとともに企業との連携を促進する能動的な取組みをスタートさせた。

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成27年度実績報告</p>
<p>3 国際交流等に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。 地元自治体並びに小中学校や公民館等と連携し、ものづくりやデモ実験を中心にした出前授業や科学イベントにも積極的に参画し、理科教育支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施した小中学生と一般を対象の公開講座は22件(受講生約290名)、また出前授業は22件(受講生約1,770名)である。この内、2件の出前授業は福井県生涯学習大学開放講座協議会からの依頼を受けて実施した。事後アンケートによると満足度は公開講座については約96%、出前授業については約90%であり、いずれも満足度は高く、科学教育の啓発と支援ならびに地域における高専ブランドの向上を図ることができた。 8月と9月に実施された自治体が主催する2件の科学イベント(入場者総数約17,500名)に出展し、理科教育支援を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 長岡で開催されるISATE2015に教職員を参加させ、研究発表させる。 マレーシアで開催されるISTS2015で学生を派遣して研究発表させる。 本校が国際交流協定を締結しているフェデレーション大学(豪州)から学生の訪問を受入れる。 プリンスオブソングラ大学工学部(タイ)に本校の学生を短期留学させる。 JICA北陸が開催を予定している事業「技術系グローバル人材育成研修」に教員を参加させる。 福井県大学連携リーグが主催して開催する「ふくい企業学」(本校教員が企画に参加)に複数の学生を参加させ、企業で求められるグローバル人材像に対する合宿研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 長岡で9月に開催された国際シンポジウムISATE2015に2名の教員を参加させ、うち1名が研究発表を行った。 マレーシアで8月に開催された国際シンポジウムISTS2015に専攻科生1名を派遣し、国籍の異なる学生同士によるワークショップに参加した。 本校が国際交流協定を締結しているタイ国プリンスオブソングラ大学(PSU)工学部に専攻科生1名を派遣し、1か月間の短期留学を経験させた。 8月にJICA北陸の主催事業「技術系グローバル人材育成研修」に2名の教職員が参加し、インドネシアにおいて約1週間の研修を受けた。 福井県大学連携リーグが主催する事業「ふくい企業学」に約10名の学生を参加させ、福井県内の複数の高等教育機関の学生らと一緒に2日間の合宿研修を行った(本校の教員2名が企画及び運営に積極的に関与した)。
	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業のタイおよびフィリピンにおける事業拠点などに本校専攻科学生を派遣して研修させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外に進出している地元企業での海外インターンシップの可能性を調査するために、8月に教員をフィリピンに派遣し、事業拠点関係者と情報交換等を行った。その結果、現地で事業展開している福井県関係企業2社から「次年度受け入れ可能」との内諾を得ることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省が主催するプロジェクト「トビタテ！留学Japan」に学生を応募させる努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の主催プロジェクト「トビタテ！留学Japan」への学生の応募に向けて、東京で開催された説明会に関係教員1名が複数回参加した。また、同プロジェクトの帰国報告会(於:東京)に関係教員1名が参加した。 1月に香港IVEから、短期留学生6名(男子5名、女子1名)及び教員1名を電子情報工学科に迎え、交流を図った。
<p>4 管</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 管理職研修会に教員を派遣する。 ストレスチェックの実施について、外注化を検討する。 管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などを検討する。 講演会・講習会などを行い、教職員のコンプライアンス意識涵養に努める。 教職員を階層別研修に積極的に参加させ、コンプライアンス意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究活動の一層の充実発展を図ることを目的として、校長裁量経費(プロジェクト計画経費)を確保し、7月に14件を採択して計4,500千円を配分した。 7月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名を派遣した。 ストレスチェック制度の実施について、これまで校内でチェック内容を集計していたものを、平成28年度からは外注化し、チェック結果ごとに医師からのアドバイスが記載される等、チェック結果の内容充実を図ることとした。 機構本部の業務改善委員会(会計部門)出納部WGに参加し、旅行会社等と連携した航空券等手配による一括払い・旅行会社等の予約について検討したが結論には至らず、同部会において継続してアウトソーシングを検討することとなった。 4月の新任教職員オリエンテーションにおいて、コンプライアンスに関する講習を行い、意識の向上を図った。 11月に、全教職員を対象にコンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、全員のリストを回収した。 12月に、会計監査人による地区別研修会(テレビ会議)において、公的研究費等コンプライアンス教育研修が実施され、総務課財務系職員が受講した。 3月の教員会議において、コンプライアンス講習会を開催し、総務課長から適正な会計処理等についての説明があった。
	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究活動の一層の充実発展を図ることを目的として、校長裁量経費(プロジェクト計画経費)を確保し、7月に14件を採択して計4,500千円を配分した。
	<ul style="list-style-type: none"> 管理職研修会に教員を派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名を派遣した。
	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの実施について、外注化を検討する。 管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェック制度の実施について、これまで校内でチェック内容を集計していたものを、平成28年度からは外注化し、チェック結果ごとに医師からのアドバイスが記載される等、チェック結果の内容充実を図ることとした。 機構本部の業務改善委員会(会計部門)出納部WGに参加し、旅行会社等と連携した航空券等手配による一括払い・旅行会社等の予約について検討したが結論には至らず、同部会において継続してアウトソーシングを検討することとなった。
<ul style="list-style-type: none"> 講演会・講習会などを行い、教職員のコンプライアンス意識涵養に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の新任教職員オリエンテーションにおいて、コンプライアンスに関する講習を行い、意識の向上を図った。 11月に、全教職員を対象にコンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、全員のリストを回収した。 12月に、会計監査人による地区別研修会(テレビ会議)において、公的研究費等コンプライアンス教育研修が実施され、総務課財務系職員が受講した。 3月の教員会議において、コンプライアンス講習会を開催し、総務課長から適正な会計処理等についての説明があった。 	
<ul style="list-style-type: none"> 教職員を階層別研修に積極的に参加させ、コンプライアンス意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> <教員> 4月に開催された機構主催「新任教員研修会」に4名が参加した。 8月に開催された機構主催「中堅教員研修会」に2名が参加した。 <事務職員> 4月に開催された機構主催「新任課長研修会」に1名が参加した。 4月に開催された機構主催「初任職員研修会」に3名が参加した。 4月に開催された北陸地区初任職員研修会に2名が参加した。 9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に3名が参加した。 12月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修会に1名が参加した。 <技術職員> 8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に1名が参加した。 8月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会に2名が参加した。 9月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に3名が参加した。 10月に開催された機構主催「中堅職員研修会」に1名が参加した。 	

平成27事業年度／年度計画実績報告

	福井高専 平成27年度年度計画	福井高専 平成27年度実績報告
<p>Ⅰ 理 運 営 に 関 す る 事 項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して可能なものから改善する。また、学内定期監査も実施し、不正経理を防止する。 ・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。 ・他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。 ・職務に関して高く評価できる職員に対し、毎年度実施している校長表彰を継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に、高専相互会計内部監査として富山高専から監査を受け、また、11月には岐阜高専において監査を行い、併せて両校と会計事務関係等の情報交換を行った。さらに、12月から1月までの間、総務課職員による学内定期監査を実施した。 ・全ての場合において教員発注を認めておらず、必ず総務課契約係に購入依頼書を提出するよう周知徹底している。また、納品検収は、総務課の納品検収所で行っており、直接教員室等へ持つていくことのないよう業者に指導した。なお、業者には誓約書の提出を依頼した。 <p>(研修会参加) <事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に開催された機構主催「新任課長研修会」に1名が参加した。 ・4月に開催された機構主催「初任職員研修会」に3名が参加した。 ・4月に開催された北陸地区初任職員研修会に2名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に3名が参加した。 <p><技術職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に1名が参加した。 ・8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に1名が参加した。 ・8月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会に2名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に3名が参加した。 ・10月に開催された機構主催「中堅職員研修会」に1名が参加した。 <p>(校長表彰)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に校長表彰選考委員会を開催し、教員及び事務職員を校長に推薦し、全教職員の前で表彰した。
<p>Ⅱ た め す 業 に る 務 取 目 運 営 の 標 準 を の き 達 効 措 成 率 置 す 化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣大学等との人事交流を引き続き積極的に行う。 ・全教職員を対象とした情報セキュリティの講習への参加を啓蒙する。 ・Office365などの運用を踏まえ、セキュリティなどの問題点を整理し、情報セキュリティポリシーなどの見直しを図る。 ・システム管理者・実務担当者・管理職などを対象とした研修会等に積極的に参加し、その情報の学内フィードバックを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に福井大学との間で、2名の人事交流を行った。 ・機構より提示されている「情報セキュリティ教育eラーニング」に教職員が参加し、全員が受講を完了している。また、機構によって開催された、標的型ウィルスメール訓練にも参加し、結果を報告した。 ・Office365のセキュリティの問題を検討し、学生・教職員の利用を可能とした。併せて情報セキュリティインシデント発生時の手順などを改善した。 ・11月開催の情報担当者研修会に3名、12月開催の情報系教員対象情報セキュリティ講習会に1名、6月開催のTV会議システムによる情報セキュリティトップセミナーに20名が参加した。今後は、これらの研修の内容を踏まえ、情報セキュリティ対策の見直しなどを検討する。 <p>以上のことから、今年度予定は100%達成できた。</p>
<p>Ⅲ 予 算</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構の第3期中期目標と中期計画に基づき策定された本校の第3期中期計画の下、各年度の計画を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構の第3期中期目標と中期計画に基づき策定された本校の第3期中期計画の下、本年度の計画を策定し、各計画事項の達成に向けて取組んだ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・契約に当たっては、原則、仕様策定による一般競争契約とし、競争性や透明性を高める。 ・複数年契約は可能なものから実施し、コストの削減、業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争契約については、物件3件、役務4件、工事4件について実施し、仕様策定により競争性や透明性の向上を図った。 ・平成28年9月末で契約期間が終了する複写機の賃貸借契約に関して複数年契約を実施する予定で、事務的な準備を開始し、翌年度の契約に向けて準備を整えた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金説明会へ研究改善委員を派遣する。 ・外部資金公募情報の全教員宛てメール配信を継続実施する。 ・全教員対象の研究活動評価調査を継続実施する(4月)。 ・科学研究費補助金申請予定者調査を実施する(7月)。 ・科学研究費補助金取得に対する有識者講演会を実施する(9月)。 ・外部資金獲得者へのインセンティブ付与制度について検討する。また、学内の共同研究プロジェクトを推進する体制を整える。 ・外部資金の獲得に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の科学研究費補助金の代表者採択件数は19件(総額:27,448万円)となった。過去5年間の傾向として採択件数は増加しており継続的努力が望まれる。 ・9月に、科学研究費補助金説明会に教職員3名が参加し、その内容を全教員に各学科・教室所属の研究推進委員を通じて周知された。毎年度実施しているものであり、本校教職員が科研費をその目的に応じて適正に予算計画を立案し、執行するという自覚意識の啓蒙に極めて有効となっている。 ・外部資金公募に関する案内を随時全教職員にメール配信し、学内の電子書庫に申請書を公開した。各教員がそれぞれの関連分野における助成金公募情報をまとめて確認でき申請発注に有効になっている。 ・全教員の研究活動評価調査を4月に実施した。十分な研究活動を行っていると評価された教員は7割を占め、昨年度と同レベルを維持した。年に一度、自らの研究活動状況を振り返ることで、自己反省となり研究活動に対する起爆剤となっている。 ・9月に、科学研究費補助金取得のための講習会を実施した。参加者は教員19名、技術職員11名、事務12名の計42名であった。科学研究費の採択経験が豊富な他高専の教員(富山高専・袋布教授)による次年度申請書の添削コーナーが設けられ記載内容のポリッシュアップが図られた。 ・第3ブロック連携研究グループに4名の教員が参加し、他高専との連携研究や学部資金の共同申請に向けた情報交換を行った。今後、このグループ活動を基に、科学研究費補助金の共同申請や共同研究へと結びつけていく体制が整った。 ・教員へのインセンティブとして、校長裁量経費の中から科学研究費補助金申請者に対する支援に計210千円、その他の外部資金獲得者に対して計1,925千円を配分した。 ・今年度は、共同研究12件を締結し、計5,300千円の共同研究費を獲得した(平成26年度の実績:8件、計2,833千円)。

		福井高専 平成27年度年度計画	福井高専 平成27年度実績報告
IV	の 短期 借入 金		
	を 担保 に 供 する 計 画 の 重 要 な 財 産		
	VI の 使 途 余 金		
VII	1 に 関 する 計 画 及 び 設 備	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスマスタープランを策定する。 ・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し、省エネを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備委員会において本校のキャンパスマスタープラン原案を検討し、老朽化している施設、建物、設備に関する長期的な修繕計画について作成した。 ・夏季(7月～9月)において、定期的に節電巡回パトロールを実施した。 ・夏季及び冬季に、空調機器の温度と運転時間の設定を集中管理し、省エネを図っている。
	2 人 事 に 関 する 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・高専、両技科大間教員交流制度の活用により、教育研究活動の活性化と連携を深めるとともに、教育の改善と質の向上に努める。 ・教員及び事務・技術職員を対象とした各研修会等に参加させ、一層の能力向上を図る。 ・「高専・技科大間教員交流制度」を利用して教員交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> <教員> ・4月に開催された機構主催「新任教員研修会」に4名が参加した。 ・8月に開催された機構主催「中堅教員研修」に2名が参加した。 <事務職員> ・4月に開催された機構主催「新任課長研修会」に1名が参加した。 ・4月に開催された機構主催「初任職員研修会」に3名が参加した。 ・4月に開催された北陸地区初任職員研修会に2名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に3名が参加した。 ・12月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に1名が参加した。 ・6月に、昨年度「高専・技科大間教員交流制度」により石川高専と富山高専に派遣された2名の教員による報告会を開催し、同制度の教員への有益性の浸透と利用を促した。 ・今年度、「高専・技科大間教員交流制度」に基づき、富山高専より英語教員1名を受入れた。 ・英語による教育指導法の修得と教育研究能力の向上を目的とした”国立高等専門学校教員グローバル人材育成強化プログラム”に、教員1名を高専機構に推薦し、派遣候補者として決定した。